

牧区地域協議会 活動報告会

～4年間の活動をふりかえって～



(令和6年3月2日 第5期牧区地域協議会委員)

★「地域協議会」とは・・・

様々な立場の住民の皆さん同士が、地域住民としての観点から地域の課題や活性化などについて話し合い、結果を地域に説明したり、話し合った内容を地域団体との連携・調整により取り組んだりするとともに、市長に意見として伝えること等を行う機関。



毎月1回会議を開催します

■市からの諮問・答申

★「諮問」とは・・・

市長が政策判断の参考とするため、特定の案件について「区内の住民の生活に及ぼす影響」の観点から意見を求めるもの。

★「答申」とは・・・諮問に対して市長に意見を返すこと。

○諮問件数（牧区）

	諮問数	答申	
		答申数	附帯意見の数
令和3年度	1	1	1
令和4年度	1	1	0
令和5年度	1	1	0



○諮問事項（牧区）

諮問日	諮問事項	担当課
令和3年8月10日	上越市過疎地域持続的発展計画（案）について	自治・地域振興課
令和4年9月20日	新市建設計画の変更について	企画政策課
令和5年7月18日	上越市過疎地域持続的発展計画変更（案）について	地域政策課

■ 地域活動支援事業の審査

★ 「地域活動支援事業」とは・・・

身近な地域自治を推進し、地域における課題解決や、それぞれの地域の活力を向上するために、市民の皆さんが自発的・主体的に行う地域活動に対して支援を行う制度。

	提案件数	採択件数	補助金額（千円）
令和2年度	9	9	4,975
令和3年度	14	13	5,000
令和4年度	8	8	4,319



宮口古墳公園における花の植栽や遊歩道の整備（宮口古墳花の会）



「棚田のきらめき」開催（泉町内会）



ふるさと村にコスモス等を植栽及び展望台の整備（レストハウス「けやき」周辺整備の会）



牧区内の除雪支援を実施（NPO法人牧振興会）

■ 区内スポーツ団体に通う子どもの保護者との意見交換会（令和3年7月16日～29日）

★「自主的審議事項」とは・・・

地域住民としての観点から、地域の課題や活性化について話し合い、内容に応じて区内で活動している団体に協力・連携を求めるほか、市長に意見書を提出し、市政での実現を求めていくことができる。

牧フレッシュ
ガールズ



牧クロスカントリー
スキークラブ



牧剣友会



<保護者からの意見>

子ども同士で遊ぶ場合は自宅間の距離があり
すぐに遊ぶことができない。
送迎のことはあまり考えず、自由に遊ばせて
あげたい。



■ 牧区地域協議会の自主的審議テーマが決定（令和3年9月7日）

【自主的審議テーマ】

～あらゆる人が安全・安心に
住み続けたい「牧づくり」について～



■ 自主的審議テーマに沿って、各団体と意見交換会を実施

■ 令和3年11月12日

NPO法人牧振興会との意見交換会

(事業を実施するうえでの課題や悩みなど)

■ 令和4年2月22日

原田 真理氏 (くるみや) との意見交換会

(開業した動機、牧区の魅力、今後の夢や希望など)

■ 令和4年3月22日

難波 美穂氏 (ポテトヘッド) との意見交換会

(開業した動機、牧区の魅力、今後の夢や希望など)



■意見交換会から見えてきた課題を整理

《子ども・子育て》

現状・課題

- ・小中とも児童数が減少している。
- ・子どもが何かしたい時、牧にこだわっていない(区外への活動)
- ・子ども同士の遊びがない。
- ・スポーツクラブに参加する児童が少ない。
(保護者が一生懸命でない)
- ・現状は複式学級
- ・清里区・牧区・高土地区を統合した場合に校舎をどうするか？
(低学年の子どもがバスに長時間乗ることは難しい)

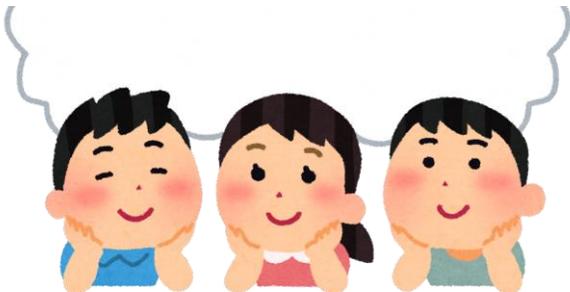
強み・特性

(さらに良くするために)

- ・児童が少ないことを特徴に指導
- ・お互いが、分かり合える関係
- ・自然の中で経験、体験をさせる。
- ・子どもがやりたいことをさせてあげる。
- ・区外から子どもを呼び寄せる。
- ・目の行き届いた範囲で、行事・イベントを行い、子どもたちが参加できれば、活動が変わると思われる。

政策

- 学区を制定せず、小学校を「選択制」にする。
※現状、保育園は選択可
例) 保護者が送迎時に送迎しやすい学校へ通わせる等
- 《メリット》
子育て面では親子の時間が増えて良い
- 《デメリット》
友達と離れ離れになる
燃料代がかかる
- スクールバスの代わりに補助



《産業（農業・林業）》

現状・課題

（農業）

- ・担い手不足、高齢化
- ・耕作放棄地の増加

（林業）

- ・豊富な資源が活用されていない。



強み、特性

（さらに良くするために）

- ・農業の二階立て組織が必要
- ・耕作地として活用できる土地がある。
⇒試験的栽培に活用
（収益の上がる作物の検討）
- ・空き家がある、市営住宅がある。
⇒人を呼び込める可能性がある
農業従事者に対し格安家賃で提供
- ・山に宝がある。
⇒山菜、よもぎ等、牧区産は質が良い
- ・薬草が多い。
⇒ドクダミ、イカリソウ
- ・市街地から近い牧区で農業ができることをPR
- ・牧区での販売促進イベント開催
- ・イタヤカエデはたくさん自生している。
⇒樹液の採取は容易
- ・メープルシロップの加工施設を整備し、
樹液を買い入れ商品化する。
- ・木を伐採した後の乾燥機を導入
⇒質の良い材木を提供できる

政策

- ・定年退職後の方対象 担い手確保
⇒新規就農者補助
- ・各農事組合法人の組合化
⇒人手不足解消
機械の共有
生産量向上
耕作放棄地の抑制



《高齢者を中心とした公共交通について》

現状・課題

- ・ 高齢化がさらに進行する。
- ・ 買い物ができない状態になる。
※今はまだ、近所の人、親戚などでカバーしている
- ・ 免許返納の促進と返納後の補完事業（75歳以上のタクシー等助成事業など）のバランスが問題
- ・ 固定店舗（農協店舗）と移動販売（セブンイレブン、無印）の特徴を生かきれていない。
- ・ 冬期間の高齢者に寄り添った対応が不十分
（利用時の玄関除雪の実施など）



強み、特性 （さらに良くするために）

- ・ 近所の人などとのコミュニティが確立されている。
- ・ 免許返納の必要性（運転に問題がある人）がある高齢者は少ない。
- ・ 固定店舗が存在すること。
- ・ 移動販売が行われていること。



政策

- ・ 高齢者外出支援拡大事業
※運転免許証自主返納支援事業の再開と、運転免許証自主返納支援事業の要件緩和など既存事業の見直しにより、高齢者が公共交通を利用しやすくし、もっては、区内の買い物促進を行う事業



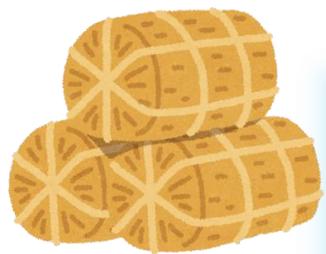
■ 牧区における「地域活性化の方向性」を作成（令和4年9月20日）

牧区における「地域活性化の方向性」

牧区の豊かな自然がもたらす多様な資源をいかして、活力と魅力あふれる牧づくりを目指します。

《牧区の地域活性化に向けて》

- おいしい水の恵みのPR（米、農産物、どぶろく 他）
- 豊富にある山の食材の活用（ウド、ぜんまい、ヨモギ 他）
- 樹木を活用した特産品の企画（メープルシロップ 他）
- 四季折々に合わせたイベントの開催
（灯の回廊、山里コンサート 他）
- 子どもから高齢者までが生きがいを持って暮らすことの推進
- 大自然の中の宿泊施設、公共施設の利用促進
（花の植栽、深山荘、歴史民俗資料館 他）



＜牧区の地域活性化に向けて＞

牧区の豊かな自然がもたらす多様な資源をいかして、
活力と魅力あふれる牧づくりを目指します。

＜構成要素＞

- ・おいしい水の恵みのPR（米、農産物、どぶろく 他）
- ・豊富にある山の食材の活用（ウド、ぜんまい、ヨモギ 他）
- ・樹木を活用した特産品の企画（メープルシロップ 他）
- ・四季折々に合わせたイベントの開催（灯の回廊、山里の風コンサート 他）
- ・子どもから高齢者までが生きがいを持って暮らすことの推進
- ・大自然の中の宿泊施設、公共施設の利用促進（花の植栽、深山荘、歴史民俗資料館 他）

子育て移住

【目標】

- ・豊かな自然と暮らしの体験を通じて、牧区を広く知ってもらい、地域の人と触れ合う機会を創出し、空き家を活用して移住促進を図る。

- ・利用できる空き家の情報収集（町内会長を通じて聞き取り等）
- ・空き家の情報発信
- ・体験メニューの検討
- ・体験受入体制の検討
- ・区内巡回体験ツアープログラム計画
区内施設の有効活用
- ・体験ツアー参加者の宿泊先検討
(深山荘・川上笑学館・ほほえみ荘・どぶろく荘)
- ・区内巡回体験ツアー用車両の購入
- ・地域イベントの情報発信

農業・林業

【目標】

- ・牧区の農地を守るため、中心となる担い手を確保する。
- ・牧区の特産品及びメープルシロップの商品化を目指す。

＜農業＞

- ・担い手(個人経営農家)による検討会の開催
- ・新たな組織体制づくりに向けた学習会及び講演会を実施
- ・区内の組織体制の検討

＜メープルシロップ＞

- ・イタヤ(梨本氏)から事業内容について説明
- ・商品化及び雇用の場としての検討
- ・メープルシロップ加工施設の設置
- ・イタヤカエデの植栽
- ・根曲がり杉活用事業

外出支援

【目標】

- ・高齢者等が地域で安心して暮らせるための外出支援を強化する。

- ・コミュニティバス活用の通知
- ・買い物支援事業拡大の検討（買い物ツアー）
- ・JA店舗の存続に向けて協議（地場産販売スペース設置等）
- ・冬期間の高齢者福祉ハウス設置

■ 牧振興会、牧区地域協議会、牧区総合事務所で意見交換会（令和5年3月4日）

グループに分かれ、各機関の「現状」や「やってほしいこと」などを意見交換しました。



■メープルシロップにおける事業概要の説明を受ける（令和5年5月23日）

イタヤの梨本 正昭氏より、樹液の採取方法や苗づくりのポイントなどを説明いただきました。



■ 自主的審議において課題を抽出し、三つの項目を確定（令和6年1月23日）

体験・移住

【目標】

- ・豊かな自然と暮らしの体験を通じて、牧区を広く知ってもらい、地域の人と触れ合う機会を創出し、空き家を活用した移住促進を図る。

- ①利用できる空き家の情報収集（町内会長を通じて聞き取り等）
- ②体験メニューの検討
- ③体験受入体制の検討
- ④区内巡回体験ツアープログラム計画、区内施設の有効活用
- ⑤体験ツアー参加者の宿泊先検討
- ⑥地域の情報発信（イベント、風景、人、食）

継続協議

農業・林業

【目標】

- ・牧区の農地を守るため、中心となる担い手を確保する。
- ・牧区の特産品及びメープルシロップの商品化を目指す。

<農業>

- ①担い手(個人経営農家)による検討会の開催
- ②新たな組織体制づくりに向けた学習会及び講演会を実施
- ③区内の組織体制の検討

継続協議

若手農業者で組織されているJA青年部等と牧区の農業振興について意見交換会を実施（R5.12.3）

<メープルシロップ>

- ①事業内容について説明

イタヤ（梨本氏）から事業内容について説明を聞く。（R5.5.23）

- ②商品化及び雇用の場としての検討
- ③イタヤカエデの植栽

<林業>

- ①根曲がり杉活用事業

外出支援

【目標】

- ・高齢者等が地域で安心して暮らせるための外出支援を強化する。

- ①コミュニティバス活用の通知

令和4年10月から実証運行実施、令和5年4月から本運行開始。引き続き乗車方法等の周知を強化する。

- ②買い物支援事業拡大の検討

牧振興会で冬期間限定（1月～3月）毎週月・木に買い物支援事業を実施していることから、回数増の依頼を含め、牧振興会と協議を実施する。

- ③JA店舗の存続に向けて協議（地場産販売スペース設置等）

総合事務所がJA店舗関係者と状況把握を行う。

済

済

■ 牧小学校保護者と意見交換会を実施（令和5年3月7日）

適正配置に係る懇談会を開催し、委員と保護者が本音で語り合いました。

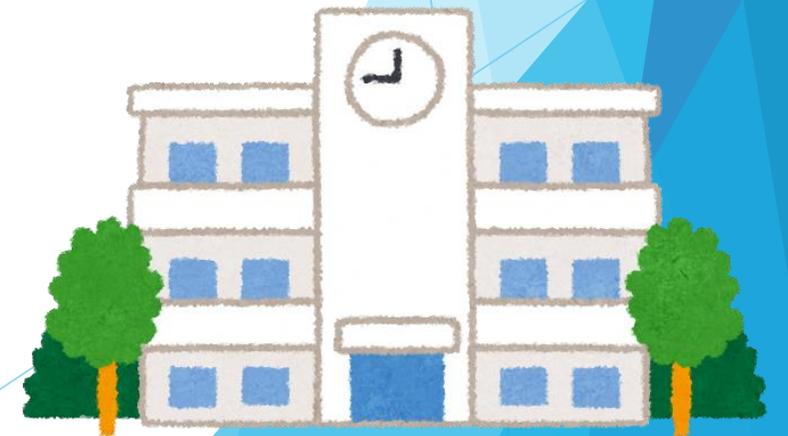
<保護者の意見>

意見交換等はもう十分。早く統合を進めてほしい。

学校をなくしたいわけではない。
子どものことを思えば統合はやむを得ない。

距離の問題だけではない。
子どもの学びは少人数でもできる。

これからもみんなで考えていきましょう



■ 牧診療所における常勤医師の確保を要望（令和5年6月2日）

「移動市長室」に参加し、牧診療所における常勤医師の確保を要望するとともに、担当課につなげました。



■ 視察研修

令和4年度は十日町市松代地区を視察し、空き家の活用について知識を深めました。



(ドイツ人建築デザイナー カール・ベンクス氏からの説明)



(お試し移住シェアハウス「竹所」を見学)

■ 4区（中郷区、板倉区、清里区、牧区）合同研修会

年1回、各区の取組を情報共有したり、委員の資質向上を目的に、共通のテーマに沿った研修などを実施しています。

実施日 (会場)	内 容
令和3年12月 (中郷区)	テーマ：「中山間地域の振興について」 講 師：(株)北信越地域資源研究所
令和4年6月 (清里区)	テーマ：「今後の市政運営について」 講 師：上越市副市長
令和5年6月 (板倉区)	テーマ：「地域おこし協力隊について」 講 師：各区の地域おこし協力隊員



ご清聴ありがとうございました！